



障害児者心理

東海大学
高山 亨太

本日のレジュメ(=学習目標)



- ① オリエンテーション
- ② 「障害」とは何か？
 - 天畠さんのビデオ・メッセージから考える
 - 熊谷さんのメッセージから考える
 - 難聴者の心理的危機から考える
- ③ 障害児者の心理を学ぶということは？
 - ソーシャルワークの観点から
 - 従来 of 障害児者心理の反省から
 - 「体験の障害」という考え方から

オリエンテーションと配布物の確認



- シラバス(15回分の詳細シラバス含む)
- ルーブリック(成績評価の客観的基準)
- パワーポイント資料(スピーチノート付き)
- 本日の参考文献
 - 天畠大輔 「言葉が伝わると、すごくうれしい」
 - 熊谷晋一郎 「自立は依存先を増やすこと、希望は絶望を分かち合うこと」
 - 上田敏 「ICF:国際生活機能分類と21世紀のリハビリテーション」

一般的な障害児者心理の 学習範囲



- 初期認知機能の発達
- 学習・記憶の発達
- 言語機能の発達
- 社会性と情動の発達
- 運動機能の発達
- 各種障害の原因と診断方法
- 心理学的測定・評価方法論
- 発達心理に関する諸理論

科学的理論的枠組みを学ぶことは、非常に重要なことではあるが、はたして、これでいいのか？他に学ぶべきこととは？ → **当事者の視点と多様性**

「障害」とは？

天畠大輔さんのストーリー (天畠 2012)



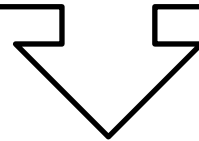
- 医療ミスにより、四肢障害、言語障害、視覚障害となる→あかさたな話法によるコミュニケーションを獲得
- 当初は、植物状態で、知能が低下していると周りの専門家に誤解されていた。



周りの人々の拡大解釈



意識はあるのに、自分の気持ちや
心理状況を伝えられない天畠さんの苦しみ



- 「看護師さんが経管栄養を忘れたことで、私は空腹で、空腹で、それが伝えられない悲しさから涙がポロポロと出てきたのです。(P59中段)」
- コミュニケーションを取れるような知的レベルではないと思われたのが苦しかった。(p60上段)
- 意識はあるのに、脳死と判定された。(P64上段)

天畠大輔さんのビデオ



熊谷晋一郎さんのストーリー



- 小児科医師

「私が幼かった頃は、“心に介入するリハビリ”の全盛期。…「心や人格」の問題に拡大解釈されていました。」

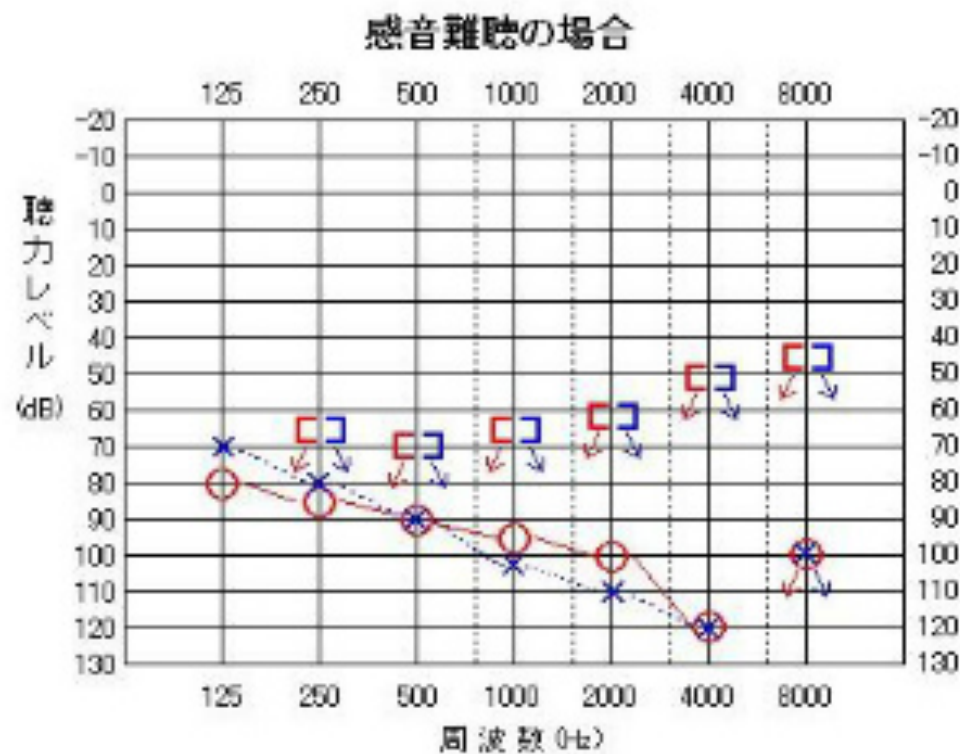


熊谷一郎さんのメッセージ (熊谷 2012)



- 「自立は、依存先を増やすこと、希望は絶望を分かち合うこと」
 - 障害者とは、「依存先が限られてしまっている人たち」のこと。健常者は何にも頼らずに自立していて、障害者はいろいろなものに頼らないと生きていけない人だと勘違いされている。けれども真実は逆で、健常者はさまざまなものに依存できていて、障害者は限られたものにしか依存できていない。依存先を増やして、一つひとつへの依存度を浅くすると、何にも依存してないかのように錯覚できます。“健常者である”というのはまさにそういうことなのです。世の中のほとんどのものが健常者向けにデザインされていて、その便利さに依存していることを忘れていているわけです。(P2 右段)」

聴力図(オーディオグラム)



聴覚障害者の聞こえ方や障害の状況を知る際に、
使われる1つのアセスメントツール

聴覚障害等級

身体障害者福祉法抜粋

級 別	現 症
2 級	両耳の聴力レベルがそれぞれ100デシベル以上のもの (両耳全ろう)
3 級	両耳の聴力レベルが90デシベル以上のもの(耳介に接しなければ大声話を理解し得ないもの)
4 級	<ol style="list-style-type: none"> 1. 両耳の聴力レベルが80デシベル以上のもの(耳介に接しなければ話声語を理解し得ないもの) 2. 両耳による普通話声の最良の語音明瞭度が50パーセント以下のもの
6 級	<ol style="list-style-type: none"> 1. 両耳の聴力レベルが70デシベル以上のもの(40センチメートル以上の距離で発声された会話を理解し得ないもの) 2. 1側耳の聴力レベルが90デシベル以上、他側耳の聴力レベルが50デシベル以上のもの

1990年代までの一般的な 聴覚障害心理学のテキストでの記述



- 自己中心的
- 利己的
- 依存的
- 無責任
- 顕示的
- 攻撃的
- 無頓着
- 非共感的



聴覚障害が直接、社会性の問題を引き起こすという
科学的根拠はない

ろう・難聴当事者や専門家からの批判



障害児者心理学のあり方の再考

インテグレーションを経験した聴覚障害者の心理的危機(河崎 2004)



- 口話教育の中で、健聴者に少しでも近づき、健聴者のように生きることを目指した聴覚障害者のつまずきと苦悩

「もう間に合わない。自分は健聴者でもなければろう者でもない。どんなに努力しても、健聴者のように速く、スムーズに口話で話すことはできない。一方、ろう者のように流暢な手話もあやつれない。どっちつかずの中途半端な存在になってしまった。」

否定的自己像 ～聴覚障害者の例から～



ろう・難聴児の90%は、生まれたときは聴者の文化の中におり、聴者をモデルとした従来の障害観や、それに基づく療育環境の中で、ろう・難聴児は否定的な自己像を肥大させることがある (Backer & Cokely 1980)

家族や地域社会の中で生きる障害児者、環境との相互作用という観点で理解し、家族を含めた多層的支援が重要

→その手助けとしての障害児心理の学習

ソーシャルワーカーが障害児者 心理的内面を学ぶことの意味とは？

IFSW「ソーシャルワークの定義」



ソーシャルワーク専門職は、人間の福利(ウェルビーイング)の増進を目指して、社会の変革を進め、人間関係における問題解決を図り、人びとのエンパワーメントと解放を促していく。

ソーシャルワークは、① 人間の行動と社会システムに関する理論を利用して、② 人びとがその環境と相互に影響し合う接点に介入する。

人権と社会正義の原理は、ソーシャルワークの拠り所とする基盤である。

- ① 人間の行動・障害児者の一般的な心理社会的内面・行動の傾向を学ぶ
- ② 相互に影響し合う接点・社会の中で生きる障害児者の視点や抑圧を学ぶ

ソーシャルワークの理念：社会正義



ソーシャルワークのキーとなる価値観であり、社会正義は、①差別、②抑圧、制度的不平等に立ち向かうアドボカシーを伴っている。

(Social Work Dictionary 5th ed. 2003)

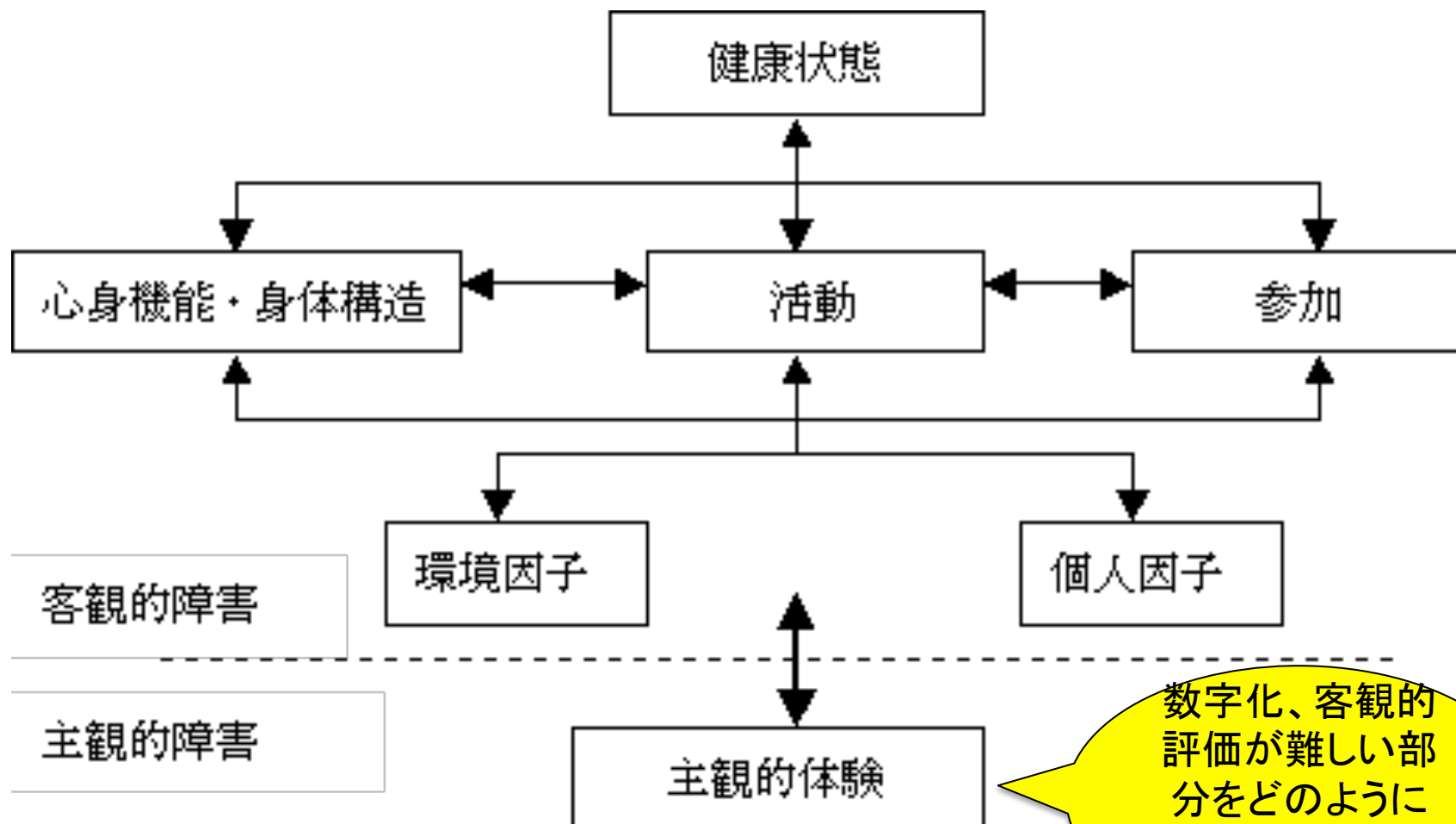
社会的排除と社会的不公正に立ち向かう概念



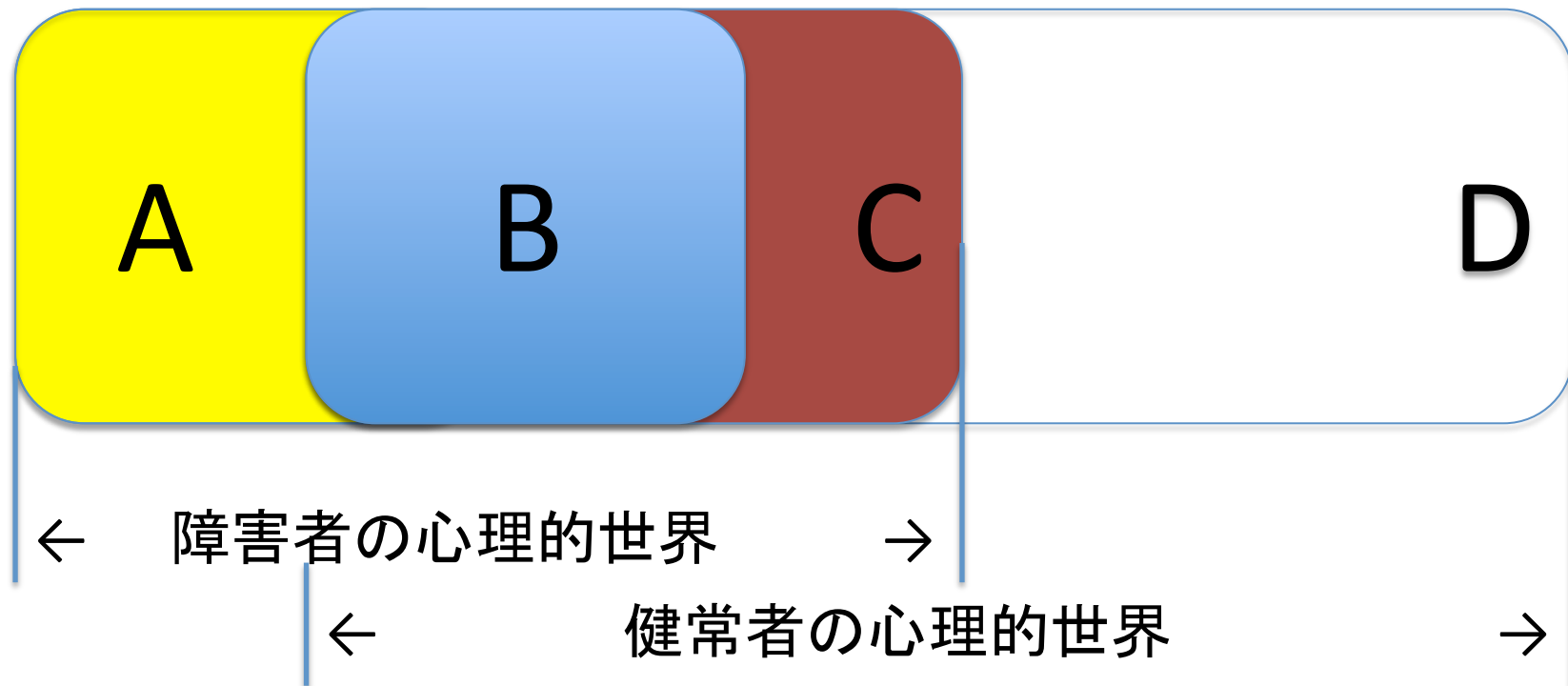
障害児者心理での学習目標の1つ

- ① 差別を受ける当事者の心理や苦痛とは？
- ② 障害当事者が感じる抑圧とは？

ICFと体験としての障害 (上田敏 2001)



障害児者の心理を知るということ (三沢 1985)

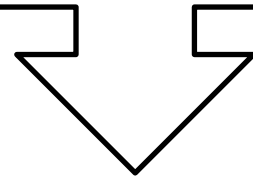


A=障害者固有の世界 B=障害者と健常者との共有世界
C=障害という壁 D=健常者だけの世界

まとめ＝障害児者心理を学ぶ目的



専門家として、障害児者心理を学び、コミュニケーションを通して知ろうとする姿勢



「可能な限り、相手の体験して感じていることに想像を巡らす、いわば身を添わす営み(村瀬 2009)」